

令和3（2021）年度

埼玉医科大学大学院医学研究科
修士課程

学生募集要項

<一般選抜>

<社会人選抜>

目 次

○埼玉医科大学大学院医学研究科医科学専攻概要	1
○医学研究科学生募集要項	11

埼玉医科大学大学院医学研究科医科学専攻概要

1. 教育目標

埼玉医科大学大学院医学研究科医科学専攻は、医学に係わる様々な分野において、幅広く深い学識の涵養を図るとともに、生命の尊厳に関する高い倫理観を持ち、学際的分野へも対応可能な専門的研究能力ならびに高い専門性が求められる職業等に必要な卓越した能力を培うことを目標とします。

2. 修業年限・学位

修業年限：2年 学位

(長期履修生制度を希望する場合には、修業年限は2年を超えることができます。)

3. 各分野の人材育成目標

(1) 生体機能科学分野

医療系分野や、医学以外の専門分野の卒業者に、生体機能関連の医科学を教育し、医学・医療関連の多様な分野で活躍できる研究者や専門職業人となる人材を育成します。

(2) 生体医工学分野

医療系や工学系分野の卒業者に、医用工学および生体工学の学習を付加することで、学際的な領域にも対応可能な研究者や高度な専門職者を育成します。

(3) 理学療法学分野

理学療法士の資格を持つ者に、専門科目に関する深い知識と技術を修得させることで、研究的な視野を常に欠かさない高度専門職業人を育成します。

4. 分野、授業科目

共 通 科 目	
医療政策学概論 生命倫理学概論 遺伝カウンセリング学概論 行動科学概論 細胞生物学概論 医療安全管理学概論 病理学概論 生体機能形態学概論 リハビリテーション医療学概論 実験動物学概論 実用実験医学特別講義 統計情報解析特論 疫学方法特論 最新医学特別講義 老年学概論	
分 野	専 門 科 目
生体機能科学分野	ゲノム医学特論 生体・病態医科学特論 生体機能科学特論 栄養学特論 環境衛生科学特論 環境微生物学特論 脳科学特論 分析医科学特論 臨床検査医学特論 生体分子機能医科学演習 生体分子機能医科学特別研究
生体医工学分野	医療安全工学特論 生体機能代行工学特論 生体システム工学特論 生体信号処理特論 生体情報計測特論 人間工学特論 レーザー医工学特論 光応用計測特論 生体医工学演習 生体医工学特別研究
理学療法学分野	理学療法研究方法論 人体機能形態学特論Ⅰ 人体機能形態学特論Ⅱ 徒手理学療法学特論 がん理学療法学特論 予防理学療法学特論 筋骨格理学療法学特論Ⅰ (上肢・脊椎) 筋骨格理学療法学特論Ⅱ (下肢) 神経理学療法学特論Ⅰ (治療計画) 神経理学療法学特論Ⅱ (手技) 理学療法学演習 理学療法学特別研究

5. 指導教員の研究分野

分野	指導教員	研 究 分 野
生体機能科学分野	鈴木 正彦	呼吸調節系の異常によって現れる疾患は多く知られていますが、その中で睡眠時無呼吸症候群は睡眠時に呼吸が停止する疾患で、有病率が高く、各種生活習慣病との関連が指摘されています。私たちは、現在、この症候群のモデル動物を使用して、呼吸循環調節、認知機能、うつ症状の変化を電気生理学的、行動学のおよび分子生物学的手法により研究しています。
	佐藤 正夫	糞線虫症は、消化管寄生蠕虫である糞線虫によりひきおこされますが、今日なおわが国において沖縄地域や西南諸島に感染者が多く存在しています。また糞線虫症は、いわゆる日和見感染症の特徴を持ち、白血病や癌治療などによる宿主の免疫低下により、重篤な合併症をきたし死亡にいたる場合もある疾患でもあります。この糞線虫症に対する宿主応答の解析を、モデル動物なども使って免疫学のおよび分子生物学的に研究しています。
	茅野 秀一	骨髄を首座とする多様な疾患を対象に臨床病理学的、分子病理学な検討を行っています。主な対象疾患は骨髄増殖性腫瘍・骨髄異形成症候群、慢性B細胞性白血病です。最近では骨髄異形成症候群や悪性リンパ腫に伴う高度な赤芽球増殖に興味を持ち、骨髄中の赤芽球分布についての観察手法の開発に取り組んでいます。主な研究手法は conventional な組織学的手法、免疫組織化学、FISH 法、PCR 法などです。病理診断学から派生する様々なテーマにも取り組んでいるので、大学院生が独自に興味を持っているテーマの「持ち込み」があれば適切に指導する予定です。
	藤原 智徳	神経細胞はシナプス結合によって相互結合し、神経ネットワークを構成することで、多様な神経機能を担うことが知られています。一般に、シナプスでは前シナプス細胞が神経伝達物質を開口放出し、後シナプス細胞情報を伝達しています。そのため、この過程を制御する遺伝子群は高次神経機能の調節に深く関わっていると予想され、またそれらの遺伝子の異常は様々なヒト精神神経機能の障害を引き起こすと考えられます。我々は、前シナプス細胞での開口放出を制御する分子に注目し、遺伝子欠損マウスなどのモデル動物を用いた解析を行っています。特に、自閉症疾患などでみられる社会行動の障害との関連を明らかにするため、行動学的解析を行うとともに、そこに関与されるとされるモノアミン類、オキシトシンなどの神経ペプチドの分泌抑制について解析を行っています。これらの研究に関連して他大学と共同研究を行っており、その研究成果により社会貢献することを目指しています。
	小野川 傑	感染症は様々な基礎疾患において合併しやすく、種々の要因から敗血症に陥った体内ではダイナミックな変化が急激に生じています。敗血症ではその進行に伴い感染病巣とは異なる臓器の障害が生じ、特に呼吸器障害の頻度が高いとされています。敗血症による臓器障害の背景は主に免疫系の過剰反応で説明されていますが、果たして本当にそうなのでしょうか？この疑問の答えを求めて、免疫系や血液系は侵襲下で崩れたバランスの修復をどのように試みているのか、敗血症モデルマウスを用いて研究しています。本研究を通じて、敗血症による臓器障害等の重症化予測および急性期治療に貢献することを目指しています。

分野	指導教員	研究分野
生体機能科学分野	野寺 誠	亜鉛は 100 種類以上の酵素活性の活性中心として存在しており、また生体防御機構にも重要な役割を担っている微量元素です。しかしながら、食生活をはじめとする生活様式の変化に起因して、現代人の多くが亜鉛欠乏もしくは亜欠乏状態にあることが指摘されています。こうした観点から、実験動物による亜鉛欠乏モデルを作製して、亜鉛欠乏時に生じる様々な病態変化を臨床化学的および免疫組織学、病理組織学的手法を用いて解明することを目的とした研究を行っています。
	伴場 裕巳	炎症と癌化に関わる研究を行なっています。正常な細胞が何をきっかけに癌細胞になってしまうのか？この命題に対して炎症に関わるプロスタグランジンに焦点を当てて取り組んでいます。最近では、栄養素が細胞機能を直接制御しうる生体機能調節因子であることに注目し、プロスタグランジンと栄養シグナルの観点から癌細胞の代謝について培養細胞を用いて分子生物学的に検討しています。
	奥田 晶彦	ES 細胞は、神経、筋肉、肝臓等、体を構成するあらゆる種類への細胞へと分化することができます。また、iPS 細胞は、特定の転写因子の導入により、皮膚細胞などの分化細胞を、ES 細胞と同等の細胞へと人工的に変換された細胞です。私たちは、このような、ES 細胞が持つ特筆すべき性質と、iPS 細胞樹立における分子メカニズムを明らかにし、それらの研究から得られた知見を ES・iPS 細胞の安全性を高めることに応用することで、これらの細胞を用いた再生医療の実現に貢献したと考えています。
	片桐 岳信	私達は、骨・軟骨・骨格筋など運動器の本質的な制御機構を分子レベルで解明し、それを疾患の治療や予防、診断等に应用することを目指しています。特に、骨格筋の中に骨が形成される進行性骨化性線維異形成症（FOP）と呼ばれる疾患の発症機序の解明や治療法の確立は、私達が最も力を入れている研究テーマです。私達は自分達の興味を満足するだけでなく、成果を社会に還元することを目標として研究しています。
	黒川 理樹	私達の研究室では、脂肪肉腫融合遺伝子 TLS（Translocated in Liposarcoma）／FUS の生化学・分子生物学的研究を進めています。526 個のアミノ酸からなる TLS の 521 番目アルギニンがグリシンに変異した突然変異体が、家族性の筋萎縮側索硬化症（ALS）患者に見出されています。ALS は中年期に発症する神経変性疾患で多くの患者さんは呼吸不全で数年以内に亡くなる難病で根治療法はありません。私たちは、これらのわずかな変異が重篤な症状を起こすメカニズムを調べ、治療法開発の基礎研究を進めています。最近では、TLS の相分離現象による ALS 発症の仕組みと lncRNA の作用についても研究を進めています。
	三谷 幸之介	私達は、遺伝子治療への応用を目指し、組換えウイルスベクターを改良して安全で効率の高い遺伝子発現技術の開発を進めています。その中でも特に、造血幹前駆細胞や iPS 細胞を対象として、サイズの大きな遺伝子の発現やゲノム編集を利用した染色体 DNA 上の遺伝子変異の正確な修復を高い効率で達成してきました。また、新しいベクターの開発に繋がる可能性もある、臨床で分離されたアデノウイルス新規血清型の解析にも取り組んでいます。

分野	指導教員	研究分野
生体機能科学分野	堀江 公仁子	私たちはゲノム医学を応用して、ヒト臨床がん、動物モデル、分子・細胞レベルでのがん研究を進めています。特に患者さん由来のホルモン依存性がん（子宮体がん、卵巣がん、乳がん、前立腺がん、精巣がん等）組織から三次元の細胞培養系と移植腫瘍モデルを作製し、ホルモン受容体や転写因子による転写制御メカニズムを明らかにする過程で、次世代のがん臨床に向けた新規診断・治療分子標的の探索を目指しています。
	池田 和博	私たちは筋骨格系およびがんにおけるエネルギー代謝に注目し、ミトコンドリア呼吸鎖複合体間で形成される超複合体とエネルギー代謝の関係について解析を進めています。私たちは、COX7RP 分子がミトコンドリア呼吸鎖の超複合体形成を促進する因子であることを世界に先駆けて発見し、COX7RP を過剰発現するマウスがマラソンランナー型の運動耐久性をもつことを明らかにしてきました。COX7RP の疾患病態における機能を現在探求しています。
	西本 正純	組織や細胞が機能を失うことで生じた疾患・障害に対し、例えば交通事故で神経機能に障害が残った場合に、その機能を回復させることを目的とした治療、即ち“再生医療”の実現を多くの患者さんが期待しています。その際、あらゆる種類の細胞に分化可能な胚性幹細胞（ES 細胞）あるいは iPS 細胞が、有効な材料として注目されています。すなわち、ES 細胞、iPS 細胞を目的とする細胞に、例えば神経細胞に分化させ、その神経細胞を、その機能を失った患者さんに移植することで、機能回復させることが可能と考えられるからです。しかしこの治療法の安全性確保には、そもそも「ES 細胞、iPS 細胞は、どのような分子機構によりその性質が規定されているのか？」を解明することが必須となります。なかでも私は「あらゆる細胞に分化する能力はいかに規定されているのか？」に注目し、研究を行っています。
	池田 正明	生理学・神経科学グループでは、遺伝子改変動物、疾患モデル、細胞系と発光レポーター解析を組み合わせた実験系などを用いて下記テーマの研究を行っている。 ①時計遺伝子の概日リズム形成における機能解析と時計遺伝子の疾患（精神神経、代謝、癌など）との関連に関する研究 ②時計遺伝子 Bmal1 の多面的（代謝、増殖、神経発生などにおける）機能の解析 ③神経・筋疾患（眼咽頭筋筋ジストロフィー OPMD 等）モデルの作成と病態解析 ④継時的マルチカラー発光レポーターによる遺伝子発明機関の解明 ⑤時間治療の応用（癌、精神神経疾患、代謝疾病など）
	永島 雅文	主な研究分野は臨床解剖学と神経科学である。臨床解剖学では肉眼解剖学の知見を臨床医学に応用することを目標として、脳神経外科学、整形外科学、放射線診断学など、複数の領域と共同研究を進めている。一例として、間接軟骨の可視化を目標として、微分干渉の原理を応用した X 線診断技術の開発を進めている。神経科学では中枢神経伝導路の形態形成を大きなテーマとして、軸索成長円錐の行動解析、側枝発芽の分枝機構などを調べている。

分野	指導教員	研究分野
生体機能科学分野	村越 隆之	<p>生化学では、中枢神経系と末梢両者における「物質・エネルギー・情報の遷移」という視点から恒常性維持機構の生理と病態解明を目指していますが、具体的には以下のような課題に取り組んでいます。</p> <p>①ストレス応答時の大脳辺縁系のリモデリング機構 ②細胞膜上分子の分子間相互作用の解析 ③自然免疫受容体 TLR の活性化機構の生化学・分子生物学的解明 ④腫瘍細胞特異的に発現するマーカー分子の網羅的解析 ⑤消化管が繰り広げる代謝制御</p>
	丸山 敬	<p>薬理学教室では各員が独自のテーマで研究を行っています。現在のテーマは以下ですが、薬理学関連の新規テーマにも可能な範囲で対応します。</p> <p>①アルツハイマー病アミロイド／タンゲル仮説に基づいた病態解明と治療薬候補のスクリーニング ②天然由来成分の生理活性機構の解明と創薬応用 ③脂質系シグナル伝達に基づくメタボリック症候群の解明 ④線虫をモデルとした創薬研究 ⑤医学系課程における薬理学教科書および薬理学実習を含めた教育の改革</p>
	佐々木 惇	<p>神経病理学研究として、2つの大きなテーマ、①脳腫瘍の臨床病理学的研究、と②ミクログリアの細胞分子病理学的研究を行っています。①に関しては、1) 膠芽腫内の腫瘍随伴マクロファージの病態解析、②髄芽腫の分子病理学的研究(多施設共同研究)、③膠芽腫長期生存例の病理学的特徴(多施設共同研究)が現在の主たる研究内容です。2) に関しましては、microgliopathy の病態解析のために、ミクログリアにおける DAPI2 蛋白発現と DAPI2 遺伝子発現の解析を行っています。</p>
	安田 政実	<p>埼玉医科大学に着任以来、「治療の個別化を視野にいれた、卵巣腫瘍における低酸素関連因子の解析」および「治療の観点からみた卵巣癌の特徴付け：低酸素関連因子の発現に基づいた治療の個別化」をテーマに、とくに明細胞腺癌を対象に研究に従事してきた。明細胞腺癌では他の組織型に比して HIF-1 α の核内発現が優勢に観察され、組織型によって低酸素環境に対応するメカニズムが異なっていることが示唆された。今後さらに卵巣癌・腫瘍特性の解明において、低酸素関連分子を基軸に抗腫瘍効果が期待される分子の発現・抑制の機序と、治療標的の可能性に力点を置いた戦略へと展開していく。</p>
	田丸 淳一	<p>リンパ節疾患の病理形態、特に 悪性リンパ腫について。 免疫グロブリン遺伝子体細胞突然変異による B 細胞性リンパ腫の正常対応細胞の同定。 Hodgkin リンパ腫の病態解明。</p>
	百瀬 修二	<p>リンパ腫の発生メカニズム解明のため、特定の遺伝子異常を起点として、培養細胞ならびに遺伝子改変動物を用いて解析します。特に、ノックインマウスを用いて、ある特定の遺伝子が B 細胞の腫瘍発生にどのように関わっているかを病理組織学的、免疫学的そして遺伝子発現などを通じて解析します。</p>

分野	指導教員	研究分野
生体機能科学分野	松井 政則	<p>ウイルス感染症やがんに対する T 細胞 (CTL) 誘導型ワクチンの開発および研究を行っています。</p> <p>①新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) に対する CTL 誘導型ワクチンの開発</p> <p>②バイオナノ粒子を用いた次世代がんワクチンの開発</p> <p>③ CTL への抗原提示を決定する新規分子シャペロンの研究</p>
	前田 卓哉	<p>大学病院臨床検査医学 (中央検査部) では「Bed to Bench, Bench to Bed」が合言葉です。研究者である前に医療者であること、そして日常臨床では解決できない課題を拾い上げ、強い探究心に心を動かされる「科学者」として問題解決に取り組むことを目指します。次世代シーケンサーをはじめとする様々な遺伝子診断技術の新規開発と、その臨床応用が我々の中心的研究課題です。さらに、臨床検査実務に関連したテーマにも幅広く取り組むことで、臨床検査技師としてのスキルアップができるようにサポートします。</p>
生体医工学分野	小林 直樹	<p>生体信号処理の研究および医用画像処理の研究。生体情報を用いて、映像酔いなどの映像による生体影響を定量化に関する研究を行っている。また、医用画像処理としては、病理画像などからの画像診断に関わる認識処理および画像の圧縮についての研究を行っている。</p>
	下岡 聡行	<p>研究室では、光や電磁界などの物理刺激による免疫機能調節に関して研究している。在学生の研究テーマは「レーザー光照射による担癌マウスの抗腫瘍効果について」である。レーザー光を従来のように腫瘍部に直接照射するのではなく、非腫瘍部に照射して宿主の免疫力を高めることで抗腫瘍効果を得ることを目的としている。波長の異なるいくつかのレーザー光で照射を行ったところ、ある程度の抗腫瘍効果が見いだされており、現在はそのメカニズムの解明を目指している。</p>
	戸井田 昌宏	<p>物理学とエレクトロニクス技術に基礎をおいた生体計測に関する研究。特に生体計測にとってさまざまな悪影響をもたらす散乱現象に妨害されることなく、目的信号を抽出検出可能な、各種コヒーレント検出技術およびイメージング技術の研究を行っている。またこれら技術に基づく生体機能と形態の非侵襲計測法の研究を行っている。</p>
	宮本 裕一	<p>低侵襲光療法に関する基礎研究</p> <p>癌の光線力学的治療 (PDT: Photodynamic Therapy) は、低出力レーザー治療 (LLLT: Low-Level Laser Therapy) と並び、低侵襲光療法の代表的なものであるが、我々は特に励起レーザー光源の照射形態、パワー密度および総照射量が、PDT の細胞傷害効果や細胞膜の透過性に対して、どのように影響するのかを評価している。また PDT の癌治療以外への応用の可能性や LLLT の細胞レベルでのメカニズムも併せて検討している。</p>
	若山 俊隆	<p>光電場の振幅と位相を時空間に精密制御した光波を巧みに操り、新たな医療機器や手術支援システムおよび診断技術の研究開発を行っている。最近では多次元内視鏡や超解像顕微分光の基礎研究から要素研究を中心に取り組んでいる。我々の生み出す先端光科学で生体の未解明な作用機序を見出して医科学に貢献していきたい。</p>

分野	指導教員	研究分野
生体医工学分野	加藤 綾子	計測制御、画像・信号処理、シミュレーション解析などの電子工学技術や人工知能などの計算機科学技術を生体医工学分野に応用した新しい診断・治療支援機器開発に関する研究を行っている。具体的には、画像解析による生体情報計測に関する研究、瞳孔計測によるストレスの定量化に関する研究、機械的刺激による細胞機能制御のメカニズム解明に関する研究、循環器系疾患の治療支援や病態理解のための循環系シミュレータの開発などに取り組んでいる。
	脇田 政嘉	物理的刺激が生体反応におよぼす影響を調べることにより生体内で行われている反応の解明。特に、物理的刺激として筋肉の収縮、血流による血管の伸縮、腸管のぜん動などによって生体が受ける刺激、すなわち伸展刺激に着目している。具体的には、筋芽細胞や心筋に分化する細胞を用い、機械的に発生させた伸展刺激によりこれらの細胞の増殖時および分化時における細胞内反応の変化について研究を行っている。
	駒形 英樹	情報工学、特に画像処理技術の医療応用を目的とし、病理画像上の特徴の自動抽出と定量化に関する研究を行っています。これらは病理診断の見落とし防止や客観化などに役立つことが期待されます。また、連続薄切標本を用いた立体的観点からの特徴抽出も研究しています。さらに、対象までの距離を認識する特殊なカメラを使用し、病院等で頻発しているベッドからの転落事故を未然に防ぐためのアルゴリズム等の研究をしています。
	石川 雅浩	画像処理を専門とし、特に医用画像処理に関して研究している。人間の視覚よりも光を細かく分解可能なハイパースペクトルカメラを用いた、病理画像中の構造認識やがん判別などを高精度に行うことを目指しています。また、MRIを用いた腎臓機能評価についても共同研究を行っています。
理学療法学分野	赤坂 清和	筋や関節における痛みや関節可動域制限、筋力低下など筋骨格理学療法、整形外科治療後に行われる整形外科理学療法、スポーツ競技やスポーツ外傷、そして外傷予防に関連したスポーツ理学療法からなる3領域を主な研究領域としている。比較的個人差が少なく健常者を対象に行う基礎研究と臨床の運動機能に関するデータ収集による臨床研究により、理学療法の効果について明らかにしていくことが研究方針である。
	乙戸 崇寛	筋骨格理学療法及び徒手理学療法の有効性に関する研究を行っている。具体的には、理学療法介入前後の変化を超音波画像や粒子画像流速測定法、3次元デジタル法を用いて定量評価することにより、これまで経験から得られていた知識や技術について再検証し、更なる理学療法手技の発展に貢献していきたいと考えている。また、徒手理学療法評価は評価者間誤差が大きいと報告されていることから、精度の高い手技を獲得するための教育方法について研究している。
	高倉 保幸	悪性腫瘍（リンパ浮腫を含む）、脳血管障害、高次脳機能、運動学習、義肢装具、理学療法教育、障害者スポーツなどをテーマにした研究を行っている。実験的研究や基礎的研究よりも、様々な研究手法・統計的手法を駆使し自らの臨床や活動をふり返ることで研究者の臨床・活動能力を向上させる研究方法の習得に力を入れている。

分野	指導教員	研 究 分 野
理学療法学分野	藤田 博暁	呼吸・循環器疾患を中心とした内部障害理学療法学、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を中心とした予防理学療法に関する研究、動作解析などを基礎的な研究を行っている。近年では、地域在住中高齢者を対象としたフィールドでの研究活動を行っている。
	新井 智之	老年学を専門としており、中高年の抱える問題とその解決の手立てを確立すること、人間の加齢変化を身体的・心理的・社会的な側面から捉えることを目的に研究を行っている。特に、高齢者のロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニア、骨粗鬆症における予防理学療法に関する研究、地域における介護予防事業や健康増進事業の効果検証に関する研究、中高年の加齢変化に関する基礎的研究を中心に行っている。
	國澤 洋介	脊髄損傷（不全麻痺）患者の歩行能力や基本動作、身体機能の回復に影響する要因の分析と回復に有効な理学療法プログラムの確立を研究テーマとしている。また、がん患者に対する理学療法（予防的、回復的、維持的、緩和的）の安全性や有効性の検証、理学療法士におけるコミュニケーション・スキルの学習法なども研究テーマとしている。
	時田 幸之輔	ヒトを含めた霊長類・脊椎動物の形態学的原則を明らかにすることを目的として、体幹と四肢の境界領域に分布する筋・末梢神経・脈管の局所説明解剖学的検討ならびに、比較解剖学的検討を行っている。

6. 履修の方法

学生は、定められた授業科目から 30 単位以上を履修しなければなりません。

履修登録にあたっては、指導教員と相談の上、授業科目から履修科目を選択し、年度初めの所定期間に「履修届」を提出する必要があります。

7. 大学院設置基準第 14 条による教育方法の特例

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっておりますが、本学では社会人に対して、昼夜開講制を導入しています。

昼夜開講制とは夜間（18：10～）や特定の時間（時期）に授業・研究指導の時間を設け、病院に勤務する医療職等の社会人が大学院の授業・研究指導をより受けやすくするための制度です。そのため、夜間や土曜日に履修できるカリキュラムを設定し、単位を修得しやすくするための配慮を行います。

この制度を利用する者は、指導教員と相談の上、履修科目等を決定します。

また、本学にはサテライトキャンパスがあります。このキャンパスは JR および東武東上線の川越駅から約 200 m の位置にあり、修学に便利な場所で授業を受けることができます。

8. 授業時間

区分	時限	授業時間	区分	時限	授業時間
一般の 授業時間	1	9：00～10：30	第 14 条特例 による 授業時間	6	18：10～19：40
	2	10：40～12：10		7	19：50～21：20
	3	13：10～14：40			
	4	14：50～16：20			
	5	16：30～18：00			

9. 長期履修生制度

職業を有する等の事情があり、2 年間の修業年限を超えて計画的に教育課程を履修することを希望する場合には、修業年限を 3 年間とする長期履修生を選択することができます。

この制度を利用する者は、指導教員と相談した上、入学手続きの際に「長期履修生志願書」を提出する必要があります。

10. 学位授与

本専攻に 2 年以上在学し、所定の授業科目について 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査および最終試験に合格することにより修士の学位（下記参照）が授与されます。

医学研究科医科学専攻 生体機能科学分野（修士課程）	修士（医科学）又は修士（臨床検査学）
医学研究科医科学専攻 生体医工学分野（修士課程）	修士（医科学）又は修士（医工学）
医学研究科医科学専攻 理学療法学分野（修士課程）	修士（医科学）又は修士（理学療法学）

なお、優れた研究業績をあげた者については、本専攻に 1 年以上在学していれば早期修了も可能です。

11. 奨学金等

日本学生支援機構奨学金：申請し採択された場合は、奨学金の貸与が受けられます。

12. 学内助成制度

①ティーチングアシスタント（以下「TA」）制度

目 的：TA 制度は、教育的配慮の下に本学大学院生に教育補助業務を行わせ、大学院生への教育のトレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当の支給により、大学院生の処遇改善の一助とすることを目的とする。

職務内容：学部学生に対する実験、実習、演習等の教育的業務

勤務時間：年間 180 時間 1 週 6 時間程度

報 酬：大学非常勤職員と同等金額とする

学 生 募 集 要 項

1. アドミッションポリシー

本専攻ではアドミッションポリシーを基本とし、次のような学生を求めています。

- ① 医学・医療に積極的な関心を持つとともに、ふさわしい倫理観を備え、くわえて他者の意見に耳を傾けることができる人。
- ② 本専攻の教育課程に基づいて学習を重ね、修了に至るために必要な一定以上の基礎的学力を備えており、根気よく学習を継続できる人。
- ③ 論理的に考えを整理し、自分の考えを適格に表現できる人。

2. 募集人員

募集人員 8名（第1回募集 6名、第2回募集 若干名）

（医学研究科医科学専攻は、生体機能科学分野、生体医工学分野及び理学療法分野の3分野で構成されており、各分野の募集人員はそれぞれ若干名とします。）

3. 選抜の区分

入学者選抜には、一般選抜と社会人選抜があります。

一般選抜と社会人選抜とは、試験科目が異なりますので、留意してください。

4. 出願資格

(1) 一般選抜

次のいずれかに該当する者とします。

- ① 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び令和3年3月までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び令和3年3月までに授与される見込みのある者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者
- ⑧ 学校教育法第102条第1項に規定する学士の学位を有する者
- ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院に在学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- ⑩ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

なお、⑩の入学資格審査の条件は、医療技術の分野で実務経験が5年以上である者

(2) 社会人選抜

社会人選抜において入学を志願する場合は、一般選抜出願資格のいずれかに該当する者で、医療職の免許を有し、入学時点で当該免許にかかわる5年以上の実務経験を有しており、かつ本専攻の趣旨に合致した研究課題を持つとともに、学会発表又は論文作成の実績があるのが望ましく、また意欲的に学ぶ姿勢がある者としてします。

5. 出願資格審査について

上記(1)の⑨または⑩で出願しようとする者は、事前に出願資格審査を受けなければなりません。

出願資格審査を希望する者は、あらかじめ、埼玉医科大学保健医療学部大学院担当へ「出願資格審査申請書」を請求し、審査手続をとってください。

出願資格審査は書類審査により行います。出願資格審査を受けて資格が認められた後、一般あるいは社会人の選抜方法を決定して出願してください。

(1) 受付期間

第1回募集 令和2年 6月18日(木)～令和2年 7月 8日(水) 16時まで
第2回募集 令和2年10月26日(月)～令和2年11月 6日(金) 16時まで

(2) 提出場所

埼玉医科大学 保健医療学部事務室 大学院担当

(3) 提出書類

次の書類を揃えて申請してください。

① 出願資格審査申請書

※ 本学所定の様式がありますので、お問い合わせください。

※ 外国人の申請様式は別となりますので、ご注意ください。

② 最終学歴に関する証明書

1) 卒業(修了)証明書または卒業(修了)見込証明書

2) 成績証明書

③ 医療関係の免許証の写し

④ 外国籍の者は、市区町村発行の外国人登録済証明書を添付してください。

(4) 審査結果

本人宛に通知します。

(5) 事前面接

出願資格審査申請書を提出する前に、志望する指導教員と予め研究内容等について相談をしてください。(日程調整が必要となりますので、早めに予約をしてください。)

分野の代表者の連絡先は次のとおりです。

分 野	代表者	メールアドレス
生体機能科学分野	藤原 智徳	tfuj@saitama-med.ac.jp
生体医工学分野	小林 直樹	naoki_kb@saitama-med.ac.jp
理学療法学分野	赤坂 清和	akasaka@saitama-med.ac.jp

6. 出願手続

(1) 出願受付期間

第1回募集 令和2年 8月11日(火)～令和2年 8月21日(金) 16時まで
第2回募集 令和2年 12月15日(火)～令和2年 12月25日(金) 16時まで

(2) 出願場所・出願方法

① 出願場所・郵送先

〒350-1241 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学 保健医療学部事務室 大学院担当 宛

② 出願方法

郵送にて送付のこと(必着)。

書留速達扱いとし、封筒に「埼玉医科大学大学院入学試験出願書類在中」と朱書きの上、
受付期間内必着となります。

(3) 出願書類

次の書類を揃えて出願してください。

① 入学願書・履歴書・志望理由書・受験票(大学用)(募集要項中の様式1～4)

※出願資格審査申請書・入学願書・履歴書・受験票(大学用)には、同一写真を貼付すること。
(縦4cm×横3cm:3ヶ月以内撮影の上半身脱帽正面背景無地 裏面に氏名記入)

※外国籍の者は、市区町村発行の外国人登録済証明書を添付してください。

② 最終学歴に関する証明書

1) 卒業(修了)証明書または卒業(修了)見込証明書

2) 成績証明書

※本学保健医療学部卒業(見込)者は不要です。

③ 検定料 30,000円

銀行振込とし、出願には検定料振込済証明書(募集要項中の様式5)を入学願書に貼付すること。振込手数料が発生する場合は志願者本人の負担となります。なお、検定料納入後の返還は一切行いません。

④ 返信用封筒

受験票返信用として、普通郵便分の切手を添え、送付先住所を記入した返信用封筒を準備すること。

※出願資格審査申請時に提出済みの書類は不要です。

(4) 事前面接

入学願書を提出する前に、志望する指導教員と予め研究内容等について相談をしてください。
(日程調整が必要となりますので、早めに予約をしてください。)

※出願資格審査申請時に事前面接済みの者は不要です。

分野の代表者の連絡先は次のとおりです。

分野	代表者	メールアドレス
生体機能科学分野	藤原 智徳	tfuj@saitama-med.ac.jp
生体医工学分野	小林 直樹	naoki_kb@saitama-med.ac.jp
理学療法学分野	赤坂 清和	akasaka@saitama-med.ac.jp

7. 入学者選抜

入学者選抜では、筆記試験、面接試験および出願書類により、総合的に判定します。

(1) 一般選抜

○ 筆記試験

共通試験		英語（辞書の持ち込み可、ただし電子辞書は除く。）
専門科目試験	生体機能科学分野	基礎医学系4科目（生化学、生理学、解剖学、病理学）、臨床検査系4科目（臨床生理学、臨床化学、臨床病理学、臨床免疫学）、ゲノム医学系2科目（ゲノム科学（遺伝学）、発生学）の計10科目の中から3科目を選択
	生体医工学分野	数学2科目（線形代数、微分積分）、臨床医学2科目（医学概論、臨床医学総論）、工学基礎3科目（電気電子工学、情報工学、機械工学）、臨床工学3科目（医用材料、人工臓器、医用安全管理学）の計10科目の中から3科目を選択
	理学療法学分野	専門基礎分野4科目（筋骨格機能形態学、中枢神経機能形態学、心肺機能形態学、運動学）、専門分野4科目（筋骨格理学療法、神経理学療法、心肺理学療法、予防理学療法）の計8科目の中から3科目を選択

○ 面接試験

(2) 社会人選抜

○ 筆記試験

英語	英語（辞書の持ち込み可、ただし電子辞書は除く。）
小論文	各分野の専門領域に関連する小論文

○ 面接試験

(3) 試験日時

第1回募集 令和2年8月29日（土） 9時30分～15時

第2回募集 令和3年1月9日（土） 9時30分～15時

(4) 試験時間割

試験科目	専門科目試験・小論文	英語	面接
試験時間	9:30～11:00	11:20～12:20	13:30～

(5) 試験会場

埼玉医科大学 日高キャンパス 保健医療学部棟

8. 受験にあたっての注意事項

- ① 出願書類等に不備がある場合、受理しないことがあります。
- ② 出願書類受付後の書類の変更は認めません。また一旦受理した出願書類は返還できません。
- ③ 受験票は必ず持参してください。
- ④ 試験開始の30分前（午前9時）までには、試験会場に到着してください。
- ⑤ 提出書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合には、入学決定後であっても入学を取り消す場合があります。

9. 合格発表

第1回募集 令和2年9月18日(金) 16時

第2回募集 令和3年1月22日(金) 16時

本学日高キャンパスの保健医療学部事務室前に掲示するとともに、本人宛に通知します。

なお、本学大学院ホームページでも閲覧できます。URL <http://www.saitama-med.ac.jp>

※掲示発表を正式とします。

10. 入学手続き

第1回募集 令和2年9月23日(水)～令和2年10月6日(火)

第2回募集 令和3年1月25日(月)～令和3年2月5日(金)

合格者には、「合格通知」と「入学手続き書類」を願書に記載された現住所に送付しますので、手続き期間中に入学手続きを完了してください。

期日までに所定の手続きを完了しない場合は、入学を辞退したものとして扱います。

11. 学納金

令和3年度入学者の学費は以下のとおりです。

区 分	金 額
入学金	300,000 円
授業料 (年額)	700,000 円
施設設備費 (年額)	200,000 円
障害保険及び賠償責任保険 (通常履修の2年分)	2,790 円
合 計	1,202,790 円

※入学金は、本学関連学校の卒業生(卒業見込み含む)からは徴収いたしません。

(詳細はお問い合わせください)

注1. 授業料については、前期と後期に分けて分納ができます。

分納を希望する者は、入学手続きの際、「学納(授業料等)分割願」を提出する必要があります。

ただし、長期履修生の授業料分納はできません。

2. 長期履修生の学費は、入学金以外の学費について標準修業年限2年分を、認められた履修期間の年数で除した額(1万円未満は1万円に切り上げ)とします。

例えば、履修期間が3年の場合は、次のとおりとなります。

入学金	300,000 円
授業料 (年額)	470,000 円
施設設備費 (年額)	140,000 円
障害保険及び賠償責任保険 (通常履修の3年分)	4,150 円
合 計	914,150 円

3. 入学手続き完了後の入学辞退は、申し出により令和3年3月31日（水）17時までに所定の手続きを終了した場合、入学金以外を返還します。

12. 個人情報の取扱いについて

出願および入学願書等に記載された個人情報は、入学者選抜の実施、合格発表、入学手続き、入学後の履修、学籍関係および学生生活に必要な業務を行なうために使用します。

本学が取得した個人情報は、法律で定められたとおり適切な管理を行います。

大学院・修士課程に関するお問い合わせ先

〒350-1241 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学 保健医療学部事務室 大学院担当

Tel : 042-984-4801 Fax : 042-984-4804

メールアドレス hokeniryous@saitama-med.ac.jp